

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年4月18日現在

機関番号：15401  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2009～2011  
 課題番号：21520046  
 研究課題名（和文） 五経正義の発展的研究

研究課題名（英文） A Study of *Wu ching Zheng yi*

## 研究代表者

野間 文史 (NOMA FUMICHIKA)  
 広島大学・大学院文学研究科・教授  
 研究者番号：20110158

## 研究成果の概要（和文）：

報告者は『春秋正義』全60巻の訳注を企図し、その第一歩・二歩としてすでに巻1～7を  
 発表している。本研究はその第三歩として位置づけられるもので、その概要は、①『春秋正  
 義』巻8・9・10・11の校定本・校勘記・訳注を作成すること、②『五経正義』をめぐる諸  
 問題を考察することである。  
 その成果として、①は冊子体にして公刊した。②は論文として11編を発表した。

## 研究成果の概要（英文）：

- ① In this thesis, I revised *Chun chiu Zheng yi* 《春秋正義》 (volume 8,9,10,11), and collated them. In addition, I translated them into Japanese with notes.
- ② Having completed the observations, I published 11 theses related to *Wu ching Zheng yi* 《五経正義》.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

## 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：十三経注疏・五経正義・春秋正義・周易正義・尚書正義・義疏学  
 ・阮元十三経注疏校勘記・山井鼎七経孟子考文補遺

## 1. 研究開始当初の背景

我が国の『五経正義』の翻訳としては、すでに半世紀以上前の吉川幸次郎氏『尚書正義』（岩波書店 1940）が唯一の完訳書であるばかりである。また『十三経注疏』としては、『孝経正義』が宮本勝氏他によって『孝経注疏訓注』（中國哲學（北大）14 1985）として完訳されたのみである。そして近時に

企画された蜂屋邦夫氏『儀禮注疏』の翻訳は、『儀禮士冠疏』（汲古書院 1984）・『儀禮士昏疏』（汲古書院 1986）の両書を以て終了し、岡村繁氏『毛詩正義訳注第一冊』（中國書店 1986）、また公羊注疏研究会『公羊注疏訳注稿』（汲古書院 1983）はいずれも未完のまま中止された。なお最近、田中和夫氏『毛詩注疏訳注小雅（一）』（白帝社 2010）

が刊行されたばかりである。まことに完訳の困難さを痛感する。

かかる状況下、報告者は『春秋正義』全60巻の訳注を開始した。『春秋正義』は『五經正義』中最も大部なものであるが、不才を顧みず着手した次第である。

## 2. 研究の目的

報告者は平成12・13・14年度の科学研究費・基盤研究(C)(2)「春秋正義の発展的研究」によって、『春秋正義』全訳注への第一歩(巻2訳注・校定文・校勘記)を踏み出し、さらに平成15・16・17年度の科学研究費・基盤研究(C)(2)「春秋正義の総合的研究」によって、第二歩(巻3・4訳注・校定文・校勘記)を、次いで平成18・19・20年度科学研究費・基盤研究(C)「五經正義の総合的研究」によって、第三歩(巻5・6・7訳注・校定文・校勘記)を経たが、本研究はさらにこれを継続するものである。

## 3. 研究の方法

本研究は、(1)『春秋正義』全60巻の校勘記を作成すること、(2)『春秋正義』全60巻の校定本を作成すること、(3)『春秋正義』の訳注を継続すること、(4)『五經正義』をめぐる諸問題を考察すること、である。

(1)は、伝統的な方法を継承しつつ、慶元刊本(北京図書館所蔵 中華再造善本・續修四庫全書影印本)・正宗寺本(宮内省図書寮所蔵 昭和六年東方文化学院影印本)を用いて『春秋正義』の校勘記の完璧を期するものである。

(2)に関しては、1999年、『十三經注疏』整理委員會(李學勤主編)『標點本十三經注疏(簡體版)』が北京大學出版社より刊行され、次いで2000年には「繁體版」、さらにまた2001年、台湾の新文豐出版公司より、「中華叢書」として「十三經注疏分段標點本」(國立編譯館主編)が公刊されたことが注目される。しかし申請者の検討したところによれば、2種類ともに、かなり不満足な出来栄えと言わざるをえない。したがって申請者は(1)を踏まえた「校定文」を作成する。

## 4. 研究成果

予定通り、『春秋正義』巻8・9・10・11の校定文・校勘記・訳注(A4版全275頁)を完成させた。数年前から特定領域研究以外では冊子体の「研究成果報告書」提出の必要は無くなったが、本研究の成果として、従来の冊子体の形式で発表し、各研究機関・研究者に配布した。

その凡例と目次を以下に示す。

## 凡例

【一】 本報告書は唐・孔穎達奉勅撰《春秋正義》三十六巻のうち、巻八(莊公元年經・傳～十年經・傳)・巻九(莊公十一年經・傳～二十二年年經・傳)・巻十(莊公二十三年經・傳～三十二年經・傳)・巻十一(閔公元年・二年經・傳)を日本語に翻訳し、譯注を施したものである。

【二】 底本は嘉慶二十年(一八一五)江西南昌府学開雕のいわゆる「阮刻十三經注疏本」を基本に、南宋慶元刊『宋本春秋正義』(續修四庫全書影印本・中華再造善本・孔子文化大全本)・『景鈔正宗寺本春秋正義』(昭和八年東方文化学院影印本・四部叢刊三編本)・足利学校遺蹟図書館蔵『附釋音春秋左傳注疏』、また南宋魏了翁『春秋左傳要義』(四庫全書影印本)とを対校して作成した筆者の「校定本」を用いる。「校定本」ならびに「校定」の根拠となる「校勘記」は、後に併せて掲載した。

【三】 《春秋正義》翻訳文の理解を助けるために、經文(【經】)・伝文(【傳】)・注文(【注】) 晉・杜預《春秋經傳集解》を附している。經文・伝文は原文のみ、注文には原文の後の〔 〕内に訓読文を附した。

【四】 經文・伝文・注文の下の〔 〕内の数字は、「阮刻十三經注疏本」の巻数・葉数・表裏(a・b)を示している。

【五】 訳文中の書名には《 》、篇名およびこれに準ずるものには〈 〉を附した。引用文は「 」によって表記するが、長文の場合は段落換えによって示す。

【六】 訳文中の( )は本文理解のために筆者が補った文章で、原文には該当する文章はない。これを飛ばして読んでも意味が通じるよう配慮したつもりである。また〔 〕は、譯注を施すまでもない簡単な注釈である。

【七】 譯注(①・②……)の見出しは《春秋正義》(疏文)の原文を用いた。見出し下の( )内の数字は、上記と同様「阮刻十三經注疏本」の巻数・葉数・表裏(a・b)、また行数(十行本として10行計算)を示している。

## 目次

### 譯注春秋左傳正義 卷八

莊公元年經	1
莊公元年傳	8
莊公二年經	12
莊公二年傳	16
莊公三年經	16
莊公三年傳	20
莊公四年經	21
莊公四年傳	24
莊公五年經	26
莊公五年傳	26

莊公六年經	27
莊公六年傳	30
莊公七年經	33
莊公七年傳	36
莊公八年經	37
莊公八年傳	40
莊公九年經	42
莊公九年傳	48
莊公十年經	51
莊公十年傳	55
春秋左傳正義校定文 卷八	60
春秋左傳正義校勘記 卷八	72

譯注春秋左傳正義 卷九

莊公十一年經	78
莊公十一年傳	78
莊公十二年經	87
莊公十二年傳	89
莊公十三年經	90
莊公十三年傳	90
莊公十四年經	91
莊公十四年傳	93
莊公十五年經	97
莊公十五年傳	98
莊公十六年經	98
莊公十六年傳	103
莊公十七年經	106
莊公十七年傳	109
莊公十八年經	109
莊公十八年傳	111
莊公十九年經	114
莊公十九年傳	116
莊公二十年經	119
莊公二十年傳	119
莊公二十一年經	121
莊公二十一年傳	121
莊公二十二年經	124
莊公二十二年傳	127
春秋左傳正義校定文 卷九	144
春秋左傳正義校勘記 卷九	158

譯注春秋左傳正義 卷十

莊公二十三年經	166
莊公二十三年傳	171
莊公二十四年經	171
莊公二十四年傳	175
莊公二十五年經	179
莊公二十五年傳	182
莊公二十六年經	187
莊公二十六年傳	187
莊公二十七年經	188
莊公二十七年傳	190
莊公二十八年經	193
莊公二十八年傳	197
莊公二十九年經	202
莊公二十九年傳	204
莊公三十年經	208

莊公三十年傳	209
莊公三十一年經	210
莊公三十一年傳	211
莊公三十二年經	211
莊公三十二年傳	214
春秋左傳正義校定文 卷十	221
春秋左傳正義校勘記 卷十	232

譯注春秋左傳正義 卷十一

閔公元年經	238
閔公元年傳	239
閔公二年經	246
閔公二年傳	250
春秋左傳正義校定文 卷十一	267
春秋左傳正義校勘記 卷十一	273

今後も巻 12 以降も継続して研究する予定である。

また(4)『五經正義』をめぐる諸問題の考察については、以下の発表論文がそれであるが、「五經正義讀解通論」として連載したその具体的内容は以下の通りである。

はじめに

- 一 今讀 (今贊)
- 二 今刪定知不然者 (今刪定以爲)
- 三 對文 (對則)・散文 (散則)
- 四 其實
- 五 或可
- 六 今知不然者 (知不然者)
- 七 斯不然矣
- 八 必知然者
- 九 其意言 (其意謂・其意以爲)
- 十 無正訓
- 十一 以意言之耳
- 十二 相傳爲然
- 十三 以當時驗之
- 十四 無正文・無明文
- 十五 事無所出・無明證・無明據・無所據
- 十六 觀文爲說・望文爲義
- 十七 未知孰是
- 十八 以俟後賢
- 十九 其義未聞
- 二十 云云
- 二十一 便文
- 二十二 古人自有複語耳
- 二十三 常訓
- 二十四 語辭・語助・助語・助句

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11 件)

1. 野間文史, 義疏學から五經正義へ—科段法の行方, 東洋古典學研究第 33 集, 査読無, 2012, pp23-32

2. 野間文史, 周易正義訓讀一屯卦・蒙卦一, 東洋古典學研究第 33 集, 査読無, 2012, pp131-152
3. 野間文史, 周易正義訓讀一坤卦・文言傳一, 東洋古典學研究第 32 集, 査読無, 2011, pp183-203
4. 野間文史, 周易正義訓讀一文言傳 (乾卦) 一, 東洋古典學研究第 31 集, 査読無, 2011, pp151-178
5. 野間文史, 周易正義訓讀一乾卦一, 東洋古典學研究第 30 集, 査読無, 2010, pp191-216
6. 野間文史, 周易正義訓讀一序・八論一, 東洋古典學研究第 28 集, 査読無, 2010, pp185-197
7. 野間文史, 五經正義讀解通論七, 東洋古典學研究第 30 集, 査読無, 2010, pp51-61
8. 野間文史, 五經正義讀解通論六, 東洋古典學研究第 29 集, 査読無, 2010, pp187-202
9. 野間文史, 日本足利學校遺蹟圖書館藏《附釈音春秋左伝注疏》考, 『隋唐五代經學國際研討會論文集』中央研究院中國文哲研究所, 査読有, 2009, pp515-535
10. 野間文史, 《尚書正義》版本小考一八行本《尚書正義》與《尚書注疏》, 『中國經學國際學術研討會 5th 論文集』國立政治大學中國文學系編印, 査読有, 2009, pp 41-61
11. 野間文史, 五經正義の禮記評価一讀五經正義札記(十一), 東洋古典學研究第 27 集, 査読無, 2009, pp169-186

なお上記掲載論文のうち、『東洋古典學研究』は第 23 集までが機関リポジトリとして公開されているが、第 24 集 (2007 年) 以降が未公開である。

URL <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp>

[学会発表] (計 1 件)

1. 野間文史, 《春秋左氏傳》之構成與基軸, 中日韓經學國際學術研討會, 招待講演, 2010. 05. 27, 中国 (香港浸會大學)

[図書] (計 1 件)

1. 野間文史, 春秋左氏伝一その構成と基軸, 研文出版, 2010, 全 416 頁

[その他]

ホームページ等  
無し

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

野間 文史 (NOMA FUMICHIKA)  
広島大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号: 20110158

### (2) 研究分担者

無し ( )

研究者番号:

### (3) 連携研究者

無し ( )

研究者番号: